

## 題 相模湾に生息するマアジの調査、生態の研究について

水産職 吹野友里子

今回のコラムは、相模湾試験場で行っているマアジの‘調査’と‘生態の研究’について紹介します。

まず‘調査’についてです。神奈川県内の定置網漁業によるマアジの漁獲量を、月別、地域別（漁場別）などに集計して、データを積み上げています（図1）。漁獲量の情報は、ジンダ（マアジの幼魚）、小アジ、マアジと銘柄別にも分けられているため、過去に遡って直近までの漁獲推移を確認することもできます。銘柄別の漁獲量データは、今後の動向を判断する材料のひとつにもなります。

また、毎月、市場に水揚げされるマアジの魚体サイズを調査しています。競り前のマアジを測定板の上に置いて、尾叉長（頭長部から尾鰭のくぼんだ所までの長さ）を測ります。方法として、キリでパンチングし、後で計数します。これを毎月行うことにより、市場に水揚げされるマアジもきれいに成長していく様子が確認できます（図2：魚体測定の手順①～③）。

次に‘生態の研究’についてです。2年前よりマアジの魚体を購入し、より詳細なデータを収集しています。魚体を解剖して生殖腺を摘出し、雄雌の判別や成熟状況を確認しています（図3）。また、左右の眼のうしろに存在する耳石を摘出し、年齢を見ています。年齢を見るには、耳石をまず包埋して（図4）、カットして、専用の顕微鏡で覗いて・・・と、時間と手間のかかる作業ですが、貴重な情報を得ることができます。

海洋環境が少しずつ変化し、魚の回遊や資源状況も日々変わってきていると思います。魚の成長や成熟、年齢などを知ることは、資源状況などを考える基礎資料となるため、引き続き取り組んでいきます。

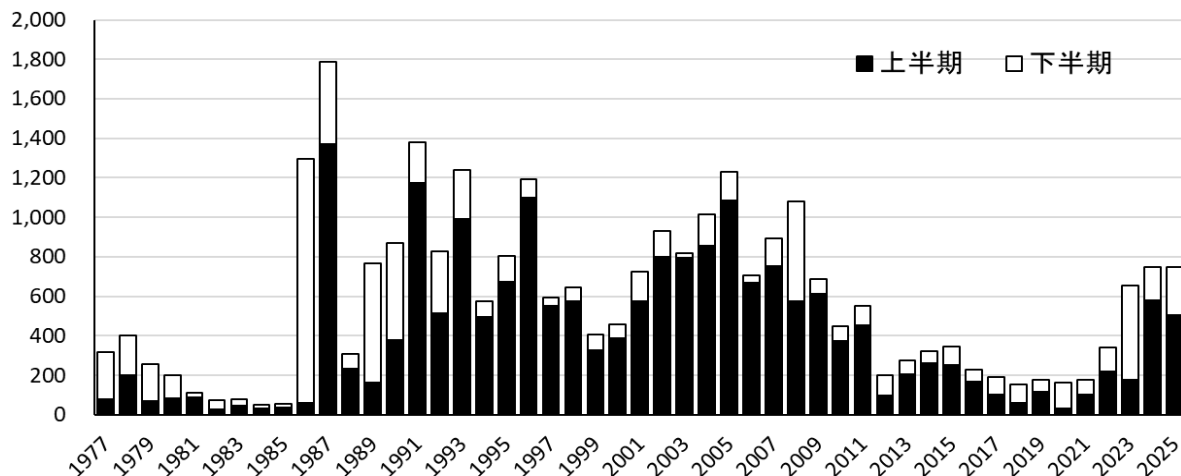
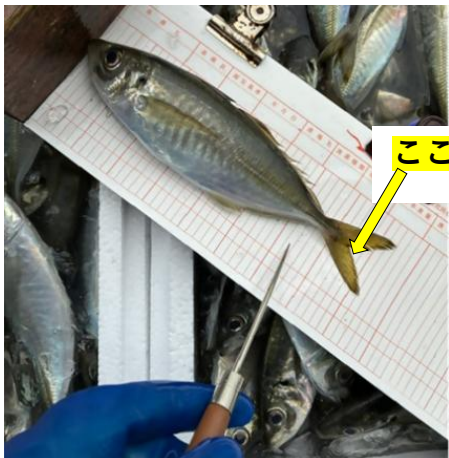


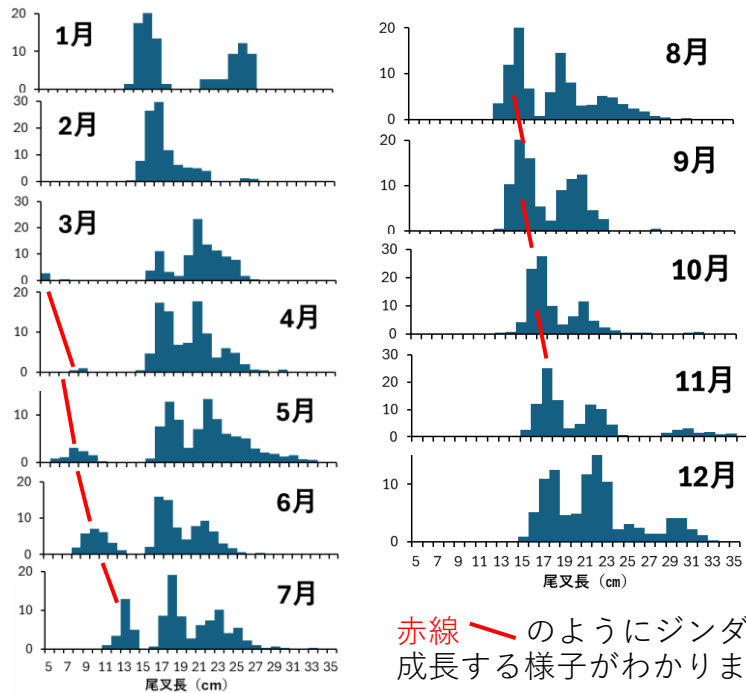
図1：1977年以降のマアジ漁獲量推移（西湘地域:大磯より西側定置網の総漁獲量）  
\*2012年～2021年は低水準でしたが、2023年より増加しています。



① 尾叉長までの長さを測ります。キリで目印を入れます。



② 点の数を計数します。



赤線のようにジンダが成長する様子わかります

③ エクセルに計数した数を入力、グラフを作成します (2025年測定結果)

## 図2：魚体測定の手順

① 市場調査での魚体測定→②③試験場に持ち帰って作業

## 生態の研究について

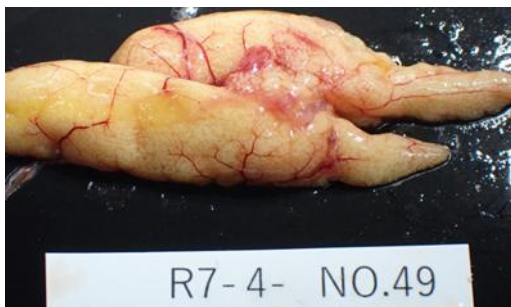


図3：成熟した雌の卵巣

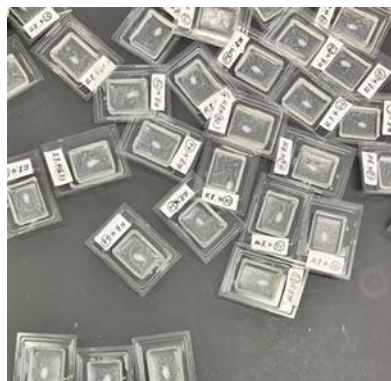


図4：樹脂に包埋した耳石。これを専用の器具でスライスして年齢を見ます。

余談ですが、2026年6月のマアジの胃内容物からシラスがでてきました(図5)。10 cm以下のジンダもシラスを大量に食べていました。シラスが出てきたのは初めてでした。2026年はシラスが豊漁となり、そういった海の状況がここでも表れた形だと思います。



図5：マアジの胃内容物 (2026年6月15日)  
\*この日は、解剖した個体の9割以上の胃内容物がシラスでした。